

『摩訶不思議探偵社』

ブライアン・キーニーさんから 日本の読者の皆様へのメッセージ

MESSAGE FROM BRIAN KEANEY

『摩訶不思議探偵社』が日本で出版されることを知り、とてもうれしいんだ。

この本を書くのは本当に楽しいことだったよ。ところでぼくが一番好きな登場人物は、おしゃべりするネコのコーニーなんだ。なぜって、あのコーニーは、ぼくの飼っているネコのコーニーがお話のもとになっているからなんだ。

この本を書いたのは、ぼくが机でうたたねしていたことがきっかけだったんだよ。とつぜん、だれかがぼくの名前を呼んでいるのが聞こえたんだ。その声のぬしがコーニーだって、ぼくにははっきりとわかった。ぼくが顔を上げると、コーニーがすぐそこに立っていて、ぼくの返事を待っているみたいに、じっとぼくを見つめている。ぼくはあわてて奥さんのところに行った。

「たった今、コーニーがぼくに話かけてきたんだよ！」ところが、ぼくの奥さんは、かたっぽうのまゆ毛をグイッと上げてこう言ったんだ。

「あなた、このごろお仕事のしすぎなんじゃない？」コーニーがぼくに話しかけてきたのは、たしかにぼくの夢だったのかもしれない。あれからぼくにひとことも話しかけないからね。

でも、ぼくが考えていることはなんでもわかっているみたいな目でぼくを見ていることはしょっちゅうある。

その夢をみてから2週間ぐらいたったころ、ぼくは探偵と魔法が両方出てくるお話を書こうって思ったんだ。すぐにぼくは、おはなしの中心はコーニーじゃなきゃいけない、と思った。しかもそのネコはおしゃべりできるんだ。

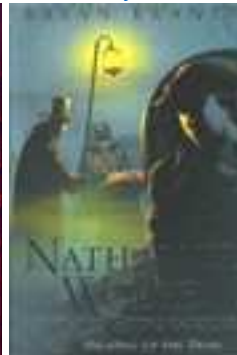
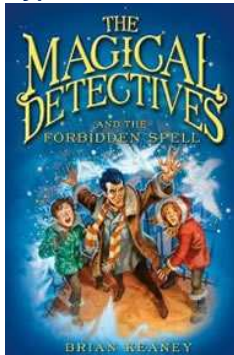
ところで、ぼくは作家になって本当によかったと思っていることが二つある。

ひとつめは、たいていの仕事はきちんとまじめにやらなければならないけれど、作家だったら、すこしぐらい人が変わって思うことだって書けちゃうってことだ。それに、ぼくは少しばかりとつびなことを考えつく人間かもしれない。

ふたつめに作家になって気に入っていることは、ぼくのまだ会ったこともない人たちが、ぼくの書いた物語を夢中になって読んでくれることなんだ。だから、これから日本の子どもたちに、オットー、ジュリエット、マクシミリアン探偵たち三人と、ぼくの大好きなコーニーがくりひろげる冒険の数々を知ってもらえると思っただけで、ぼくはいま、机の前にすわり、遠い空を見あげながら、うれしくて思わずニコニコしてしまっているんだ。

翻訳：屋敷直子

ブライアン・キーニー (Brian Keaney) — Official Website - <http://www.briankeaney.com/about.htm>



英国の作家。1954年、イングランドのイーストロンドン、ウォルサムストウ生まれ。アイルランド人の両親のもとに育つ。英語の教師をしていたころ、学校内の司書がヤングアダルト小説の熱心な読者で、勧められて読んでいくうちに、その面白さに魅了される。

これがきっかけとなり、小説家の道を目指すこととなった。1985年の処女作“Don't Hang About”、1998年発表の“The Private Life Georgia Brown”(『ジョージア 旅立ちの予感』定松正訳、さえら書房、2000年)、“Jacob's Ladder”(2005)、“The Gallowglass”(2007)などがある。

本書“The Magical Detectives”は2011年の作品で、続くシリーズ第2弾“The Magical Detectives and The Forbidden Spell”も同年に発表された。現在は妻と二人の娘とともにロンドンで暮らしている。

MESSAGE FROM BRIAN KEANEY

I am delighted to learn that The Magical Detectives is going to be published in Japan. It's a book I really enjoyed writing.

My favourite character in the story is Corny, the talking cat, because he is based on my own cat, Corny.

The book actually started when I fell asleep at my desk one day. All of a sudden I was awoken by a voice calling my name and I was quite certain that the voice belonged to Corny.

I woke up and there he was standing on the floor looking up at me, expectantly. I ran to get my wife. "Corny, just spoke to me!" I told her. My wife raised one eyebrow. "I think you've been working too hard," she told me.

I suppose it must have been a dream because Corny has never said another world to me but he very often looks at me as if he knows exactly what I'm thinking.

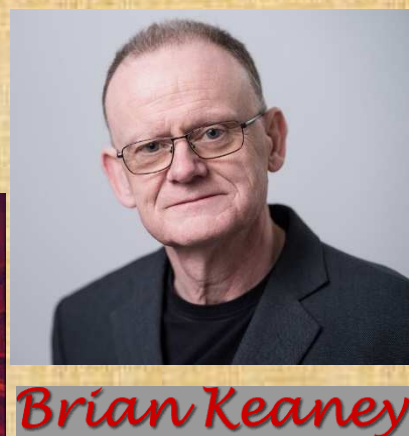
A few weeks after that dream I decided I wanted to write a book that was a cross between a detective story and a fantasy. Right away I knew that Corny had to have a starring role and, naturally, he had to be able to talk.

There are two things I really like about being a writer. The first is that in most jobs you have to be sensible but if you're a writer, it helps to be a little bit crazy. And I guess I am a little bit crazy.

The other thing I really like is when people I've never even met read my stories and enjoy them.

So the news that young people in Japan are going to hear about the adventures of Otto, Juliet, Maximillian and (of course) Corny, makes me sit at my desk and stare into space with a great big grin on my face.

Brian Keaney



Brian Keaney

発行: 2017年6月1日

原書: THE MAGICAL DETECTIVES

タイトル: 摩訶不思議探偵社

定価: 1,600 円+税

著者: ブライアン・キーニー

訳者: 屋敷直子

ご購入:

<http://www.babelpress.co.jp/shopdetail/00000000881/008/O/page1/order/>

以上、ご高評くださいますよう、お願い申し上げます。

【本件に関する問い合わせはこちら】

〒180-0003東京都武蔵野市吉祥寺南町2-13-18

TEL: 0422-24-8935 FAX: 0422-24-8932 email: press@babel.co.jp

バベルプレス (株式会社バベル) HP: <http://www.babelpress.co.jp/>